



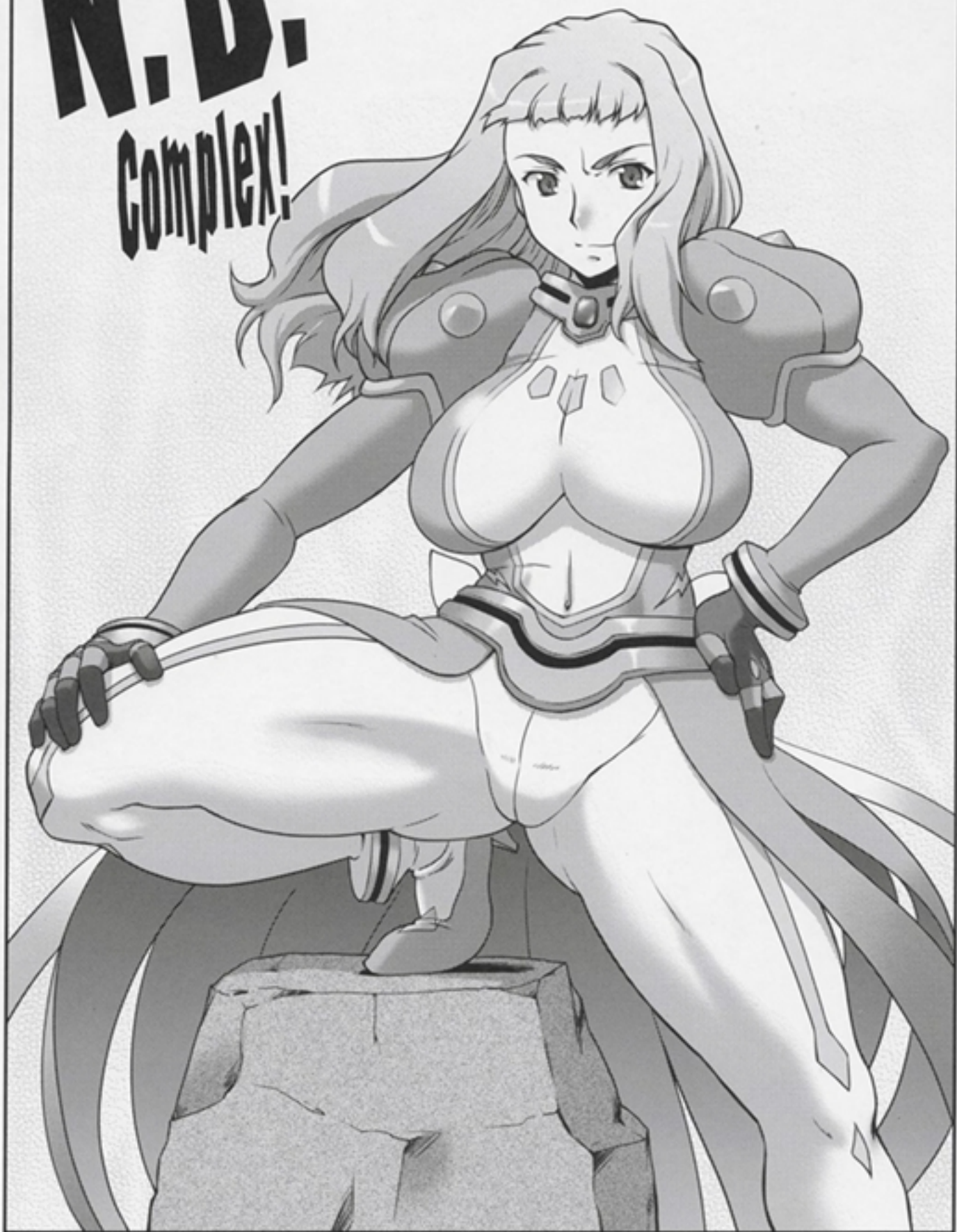
N.B. Complex!

2007 Spring.
Sago-Jou/Seura-Isago
Presents.

Selected rough
illustrations of
Seura Isago,
2004-2006.

★Caution!★
This book is
For Adults Only!★

N.B.
Complex!





「何を……して……サラ……っ」

突然妄想していた相手に声を掛けられ
狼狽の局地に達するサ……

完全にオナニーに夢中になって
周りがさっぱり見えてなかった様です
そして完全に限界だった
おちんちは「ハルカお姉さま」の
目の前びんびん……

「ハルカ……お姉さま……っ!？」

あ……う……あああ……っ!

う……う……っ……だ……ためえ……っ……♡

射精……っ!？」

いや……っあひつため……っためためえっ♡

止ま……あ……♡とまってええええええ♡

いやあ……♡いや……♡い……あああああ……っ!

「……………あ……………ああ……♡

あ……う……う……♡

たつぷり数十秒は射精を続け
頭の奥まで真っ白になりそんな快感に

あ……う……う……♡

「あ……ああ……♡」
「見られて……しまった……ハルカ……お姉さまに……
大統領にまで……見られて……私……
あんな……頭真っ白になるくらい……気持ち良いなんて……」

「意外だわ……♡ 普段冷静なサラさんが……
ま……っ全く破廉恥だわオオニなんてっ！
それを言うなら……」

「くす……オオニと仰りたいんですかハルカお姉さま……
だ……大体ハルカお姉さまだつて……なんなんですかそれ……っ
そんな勃てていらっしやる方に言われたくありません……っ
う……」

「まあまあハルカちゃん、
それにハルカちゃんのこと
想いながらみただったし……ね？」

「実の所サラをはしたないと責めつつも
自分も「干」にしてほり決め込もうと連れられて来た所だった准将。
自分の名を呼びながら涙目で
射撃し続けるサラの姿に興奮を隠せません。
体は正直な物で、極太のおちんちんは限界まで勃起して
時折びくんと痙攣するほどです……」



「まあそりゃあ……そこまで想ってくれるのは……
悪い気はないわよ……でも……貴女普段あんな……
「変……ですか……？ あんなに……会う度色々言ってる癖に……
……まあ、私自身でも……馬鹿だつて……分かってます……
「……ハルカちゃんだつてまんざらじゃないわよね？
「ちよつユキノ……やめなさい……あつ♡
「ほら……サラさん……こーんなにびんびんに
ハルカちゃんしちゃってるよ……？
ちよつびり妬げちゃうかなあ……？
「あ……凄い……」
は……ハルカお姉さま……ん……れる……つお姉さまあ……

突然閣下に龜頭を紙められる准将。
思わず甘い声を返してしまいます。
そして誘うような閣下の言葉にサツモ
引寄せられる様に舌を這わせ……

「うあつーや……つちよ……やめなさい……っ！
ユキノ……サラ……っ！

「うふふふ…… そーんなこと言いつつもハルカちゃん
すっごく落けた顔しちゃってるよ……？」
「夢……みたい……ハルカお姉さまの……おちんちんに……私……」
「はあ……っん……れる……っ♡
「はあ……っはあ……っ♡ん……ちやう……っ♡
「あ……っ♡あ……っ♡あ……っ♡うああ……っ♡

憧れていたハルカお姉さまのおちんちんの味に
興奮するサツ……夢中になって龜頭に舌を這わせ……
そして閣下もそれに動きを合わせ……
たたひたすらにれろれろれろれろで……

龜頭だけを賣め続けられる准将。
まるでナメクシの様に形を変えぬろめろと
おちんちんの先を刺激し続ける二人の舌に……
あつけなく限界を迎えます……



ひたすら亀頭だけをちろちろと舐め
ダブルフェロでちんぽがクムする程
射精の快感にとろとろに
漏けた表情しちやつてます
その量は流石で、二人の顔に
オトメのおちんぽ汁を
びゅるびゅるとふっかけ続けます…

「あ…ひ…あああああ…っ♡
「あ…っ…凄…っハルカお姉さまの…精液…っ♡
「うふふ…凄いでしょ…ハルカちゃんのおちんぽ汁…っ
すっく…濃くて…量もいっぱい…っ♡
「あ…っいやあっ駄目…っ♡…イッたばかりの先…っ
嘗めるの…止めなせ…あああ…っ♡



「ん…♡これが…ハルカお姉さまの…
「ふふ…♡とっても美味しいでしょ？
ハルカちゃんのおちんぼ汁…♡
「はい…♡少し…苦いけど…
不思議です…美味しくて…
頭…くらくらする位です…
」………」

オトメの精液は
ナノマシンみたいな物で
実際に妊娠させる力が無かったり
オトメの力を奪ったりする事は
無いのですがその代わり
強烈な催淫作用があります。
陶然とした顔で思いつきで
ぶっつけられた
ちんぼ汁を嘗め取るサラ…
その癡態に思わず
「好き」まわてしまっ
「准将さんなのであります」

「ふう…ふう…♡
「あ…♡ちよ…♡
止めなさいサラ…♡
「駄目…駄目です
ハルカお姉さま…
私…もう我慢なんて…♡
」………」

ハルカお姉さまの精液を
たろふり味わって
完全に発情しちゃったサラ
思わずハルカお姉さまを
押し倒し後ろかち犯さず
くっくっとおまんこに
おちんちんに勃起した
おちんちんを擦り付けます。

准将は准将で普段から
閣下に調教された所為か
回して駄目といいつつ
おまんこに抵抗する素振りも
無くておまんこを
濡らして挿入に期待してはしゃいでいます



髪に顔を埋めハルカお姉さまの香りに酔いながら
真っ白てたつかなかの巨大なお尻に
夢中で腰をばんばん打ち付けるサマ...

准将は長くて硬いサマのふたなりちんぽて
さちさちのおまんこの奥の奥まで犯され
子宮を押し上げられ...
たた獣の様に喘ぐ事しかできません

「ん...ん...ん...ん...ん...」

ハルカ...お姉さま...ハルカ...お姉さま...ハルカ...

ハルカお姉さま...♡

「あ...あ...あ...♡

お...は...♡

お...奥...♡

その柔らかさに惹き込まれ

一心不乱に打ち付けられる腰に、

鍛えられた筋肉の上に

たつかりと脂肪を乗せた

大きすぎる准将のお尻は波打つように

形を変え続けます...





そのたつかりとした臀部に負けず
揺れ続ける雌牛じみたサイスの爆乳
たふたふと揺れるうしちぢぢを
搾乳するやうな手つきで揉み込まれ
準備はソクメテ前へ
追っ込まれます……

「や……サテ……」
も……駄目……♡♡
あふっ♡ぶっ♡♡
あふあっ♡はあん♡♡
「ハルカ……お姉さまあっ
中が……きゅんって……
あああっ♡わ…私も…
もう……♡もっ♡♡♡♡

腰を引いて逃げようとするハルカお姉さまに腕をしっかりと回し、爆乳を掴み、種付けしようと必死で腰を小刻みに振るサツ。大好きなお姉さまに腹内出ししたくて夢中になって…女としての羞恥心もマイスターとしての矜持も何もかも忘れてしまっています…

「です…でちやいます…♡」
「せ…精液…♡ハルカお姉さまの中に♡」
「びゅっびゅって♡しちやいますうう…♡」

「ああん…っため…駄目よサラッ！
あ…ん…あ…う…う…う…そ…ダメ…ッ
い…っイ…っちやう…っ♡
ダメ…っ♡イ…ってる所に射精されたら…っ
だめ…っ♡ためえん…っ！

「…っあ…っ…っ！
で…う…あ…あああああ…あ…あ…っ！
「やっはあああああああ…あ…あ…あ…っ！

激しい抽送に絶えかねアクメを迎えた瞬間のハルカお姉さまの腹内の激しい痙攣にサツも限界を向かえ…腰をびゅちりと押し付けられ腹奥で弾ける射精に…准将は更に激しくイ…ってしまいます。アクメしたばかりの膈粘膜や子宮口にオトメの媚薬精液を叩きつけられる快感は凄まじい物で、完全に脚が立たなくなり倒れ…む二人なのでした…

「あ…ああん…あはあ…♡
「ハルカ…あ…おねえ…さまあ…♡
あ…ん…♡

そしてそんな二人を見て発情を抑えきれない方が一人…
「……………(汗)…
ふふ…今夜は…すっごくなりそう…



あれから4時間ほど……
夜も白みかけた頃……

数え切れないほど絶頂させられ
半分失神に追い込まれたサラ。
准将の極太ふたなりちんぽも
流石に限界を迎えつつありましたが
閣下はまだ満足していません。
半泣きで許しを請う准将なのですが、
発情しきった上ちんぽと挿入にも駆りだされた閣下は
まだまだ許してあげるつもりもない様なのであります。
エアリースの夜が明けきるまでは、まだまだかかる予定です……

「あ……あ……はあ……」
「はあ……♡はあ……♡はあ……♡」
「あ……うう……」
「ゆ……ユキノ……」
「もう……限界よお……」
「ええ……ダメだよハルカちゃん……？」
「私まだ満足してないもの……♡」
「もう一回だけ……ね？」
「も……もう許して……ええ……」
「あう……うう……」

オトメには一般に知られている
ロープとエレメントの
マテリアライズだけではなく、
隠された力があるそうです。
それはナノマシンを利用し
個々の体に応じた男性器の具現化……
平たく言えば

『ふたなりおちんぼのマテリアライズ』
ができるという事ないけない
能力があるということなのです……
もちろんいつた時に射精される精液は
オトメのナノマシンには無害であり、
その上強烈な媚薬作用があるとかなないとか、
特に腔内射精された時の効果は
凄まじいらしいですよ。
フミさんも罪作りですね。

深夜誰もいなくなった大統領執務室で
両手で乳牛が搾乳されるかの様に
ふたなりおちんぼをシゴかれ
ザーメンを搾り尽くされる
マイスターハルカ。
あ、言い忘れてましたけど
他にも母乳分決出来る様になる
って能力もあるとかなないとか

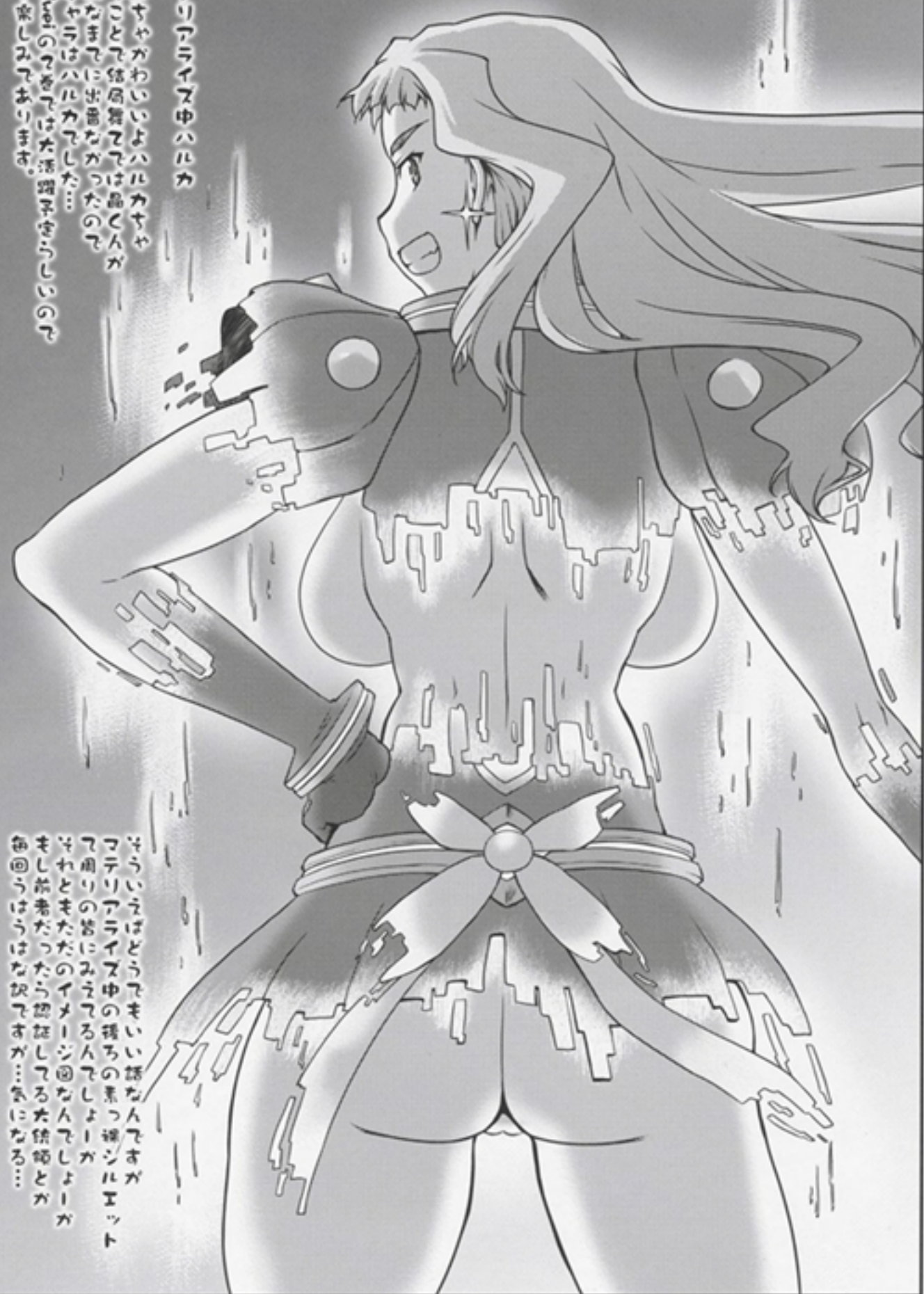
そんな勝手なエロ設定で
お送りしました。
すみません。

挟いては舞・乙HIME Zwei
関連のラクガキ本「舞乙徒然」です



◎マテリアライズ中ハルカ
ハルカややがわいいよハルカやや
ということでは結局舞ででは品くんが
使望めなまてに出番なかつたので
最初キキはハルカでした…
舞でZweiのまき「たまたまお話を聞いて
すよー楽しんでますよー」

そういえばどうでもいい話なんです
マテリアライズ中の後ろのまつシルエット
で周りの皆にみえてるんですけど
それとまたたのイメージなんですよ
もし前者だったら認してる大統領とか
毎回うはうはな訳ですが…気になる…





◎いつも申し上げてらん サラ・ギヤラガー

サラガわいいよサラ

いやまあ高慢に巻けた髪を強い訳ですが
ハルカちゃんとの絡みがやっぱ萌えますな

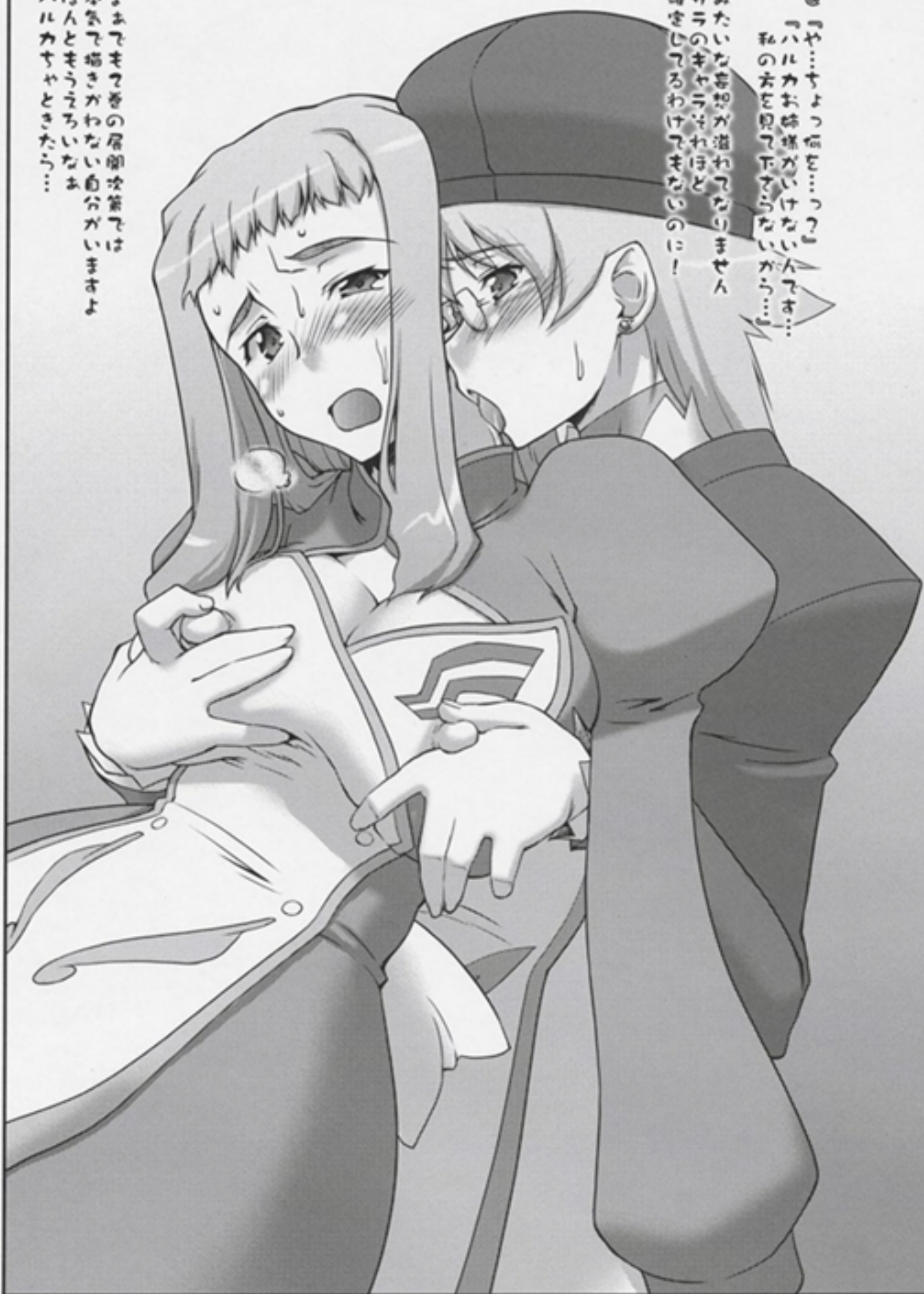
取って大統領とハルカちゃんの夫婦漫才に
踏み込んでいく姿勢が(百含めに)素晴らしいですよ

2ndのときでどうなることやら…
ほんとドキドキしてます

◎「や……す……っ……」
「ハルカお姉様がいけないんです……
私の方を見て下さらないか……」

みたいな思想が溢れてなりません
ササのキョウコはほど
確信してるわけでもないのに！

ままで……その肩が冷たくては
本気で痛さがわからない自分がいますよ
ほんとうとそう思ういなま
ハルカちゃんとさう……





◎著者ローブリーカ

いや？！いや？！にガースト聖槍ガッて
アリアのおっぱいの成長っぶりですな
道在もあるのガーストっぶり
いやらしい体い！もう！

それでまやはり握れ方は
たゆんって蒸じよりモ
ボるんって蒸じで蒸りのある聖槍を
垂れ気味おっぱいが主食の自分ですガ
こーゆー噴々しいのモイイ！

◎「おんてアリカヤなたばっがり……」
「うまっ♪ まっマシロちゃん
駄目だよそんなん……あまんっ♪」

みたいな妄想が溢れて止まりません！
一緒にお風呂にも入ってたし
そりゃもうマシロちゃんに
ほまれまくりには決まっています。

女を股下相手なら荷物だつて
てええ可でも可能ですし！



Embrace



「やっぱり嫌なの……なつき……」
 「そっすういう問題じゃないだろ……」
 「こんなの……こんなのは駄目だ……」
 「そんな……うちの事好きって
 なつきゆうてくれたやないの……」
 「だから……は親友として、
 好きだって言ったんで、あってたな……」
 「……でもうちと一緒に逝く事
 決意してくれる位には……」
 「好してくれとるんやね……なつき……」
 「あ……あ……そりゃ……そりゃ……けど……」
 「ふる……嬉しいわぁ……ホント……嬉しい……」
 「静留……」

「……そこまで想ってくれとるんやったら……」
 「親友も恋人も……ホへのちよびりの違いしかあらへん……」
 「あ……静留……」
 「ああ……なつきの言葉おちんぼ……」
 「素敵やわぁ……♡」
 「……止め……静留……」
 「そないゆうてもなつき……」
 「全然逃げようともしとらんやないの……♡」
 「うう……」
 「……本当は……なつきも知りたいんよねえ……この気持ち
 この……気持ち……」
 「親友が恋人に変わる瞬間の切のせて甘い……」
 「しびれてまうような気持ち……♡」
 「しびれる……なつき……甘い……」
 「そおや……なつきの事思っ張……」
 「うちの心の奥の方でなんや……重みもないな……」
 「とろとろの甘い気持ちか滲きあがってくるんよ……♡」
 「……静留……」
 「あぁ……なつき……なつき……」



「あ…なつき…もおこなに…」
「ひっ…しっ…静留駄目だ…」
「うちの台詞でこななに
なつてくれとるなんて…」
「ああ…もおそれだけで
うち濡れてまうわぁ…」
「わっ私は決してそんなんじゃ
「じゃあなんでこなな」
とろっとうにしろん…」
なつきっ」
「いや…それは…」
「うちの所持ちとおんなじ甘みさ…」
ん…ちゅ…ふんふん…美味し…」
「うわ静留っそんなの舐めるな馬鹿ッ」
「『そんなの』って…」
なつきのお○こ汁…
こなな美味しいのに…」
「お…お○こ汁…っ」
「もおお圓たふたふなるまで
飲んでたいくらいぢ…」



「うう……うあああ……」
「あ……入って……ん……」
なつきの麗貞おちんぼ……♡
美味し……♡
「あ……し……静留……」
「どこ……うちのおめ……」
「ああ……あつたか……」
きゅんきゅん締め付けてきて……♡
す……♡



「うう……うあああ……」
「あ……入って……ん……」
なつきの麗貞おちんぼ……♡
美味し……♡
「あ……し……静留……」
「どこ……うちのおめ……」
「ああ……あつたか……」
きゅんきゅん締め付けてきて……♡
す……♡

「ん♡そ…そおや…
 なつきの包茎おちんぼ…
 大人のおちんぼにしてあげんな…♡
 「え…うっ…
 「こうやって…んっ♡
 …抜く時は…緩めて…え…
 いっ♡挿れる時は…
 きゅっ♡と締め…て…♡
 「あああ♡
 剥けるっ剥けちやうううっ!!!
 「ん…あは♡ たんだん
 剥けていっ♡てるの分かるわ♡
 「ああっ駄目っ駄目だ
 こんな静留の腹内で剥かれていっ♡ちやうううっ♡
 「ぞお…うちのおめこ…
 なつきの包茎おちんぼ
 剥く為だけに使っ♡うてええんよ…
 「ああっ全部剥け…♡っ♡
 「ああ…♡すっ♡から皮剥けてもあた
 なつきのたくましいのが
 うちのお♡こえ♡ってるっ♡
 「だ…駄目だ静留刺激がっ♡み…♡
 ああカーが…剥きたし♡の
 母の♡こ♡え♡♡
 「ああっ♡カー♡え♡
 お♡え♡ら♡れ♡…♡す♡は♡ご♡ご♡♡



May:lish

#1



「どうしたんだそれ姫子…」

「べ、ベッキーに無理矢理生やさされたのぉ…」

「なり？」

「泣いて嫌がる私を台に縛り付けて」

「『アタシの実験台になれることを幸運に思え姫子』ってえ…」

「な…あのカキンチョ先生」

「いつか何かやるかと思ってたが…」

「そ、そうなんだよぉ…」

「…なんて言うと思ったがバカ」

「大方あれだろ？」

「オマエが嫌がるベッキーに」

「泣き落として頼み込んで」

「生やして貰ったってトコだろ？」

「…ああん？」

「ちっ違うよ玲ちゃん信じてよう」

「私の目を見て言え姫子」

「う…ううごめんなさい嘘ついでました…」

「ほーらみる…まったくこのバカ…」

「ウッ」

「ク」

「一つ確認しておくがベッキーを襲ったりなんてしなかっただろ？な姫子」

「やっやだなく玲ちゃん」

「私がベッキー襲おうなんてするわけないじゃん」

「…」

「こ…ごめんなさい襲おうとしました」

「襲おうとしたけどなんか」

「セキユリティシステムとかいうので」

「付けてもらったおちんちんごと」

「丸焼きにされる所だった…テヘ」

「て…じゃあいいよ…それで結局」

「ベッキーに蹴り出されたってか…」

「うん…ねえ…お…お願いだよ玲ちゃん…」

「もう…私…おかしくなっちゃいそうだよぉ…」

「びん」

「びん」

「……………ほお…？犯りたいのか？」
「あうっ！」
「犯りたくてしかたないんだろ私を？」
「あああああッッ」
「だめっだめだめ玲ちゃん
おちんちん踏んじやダメーッッ」
「そっかー姫子の童貞切れるのかあらららら…
れ、玲ちゃん…顔怖いよっ？」

「トとなあ姫子の癖」
私を襲おうなんだー億年早いよな…っ
「あうっ…はっッッ」
玲ちゃんがおちんちん踏んでるッッッ
玲ちゃんの脚…脚いっッッ

「れ…玲ちゃん…挿れたい…
「ん？もー射精したからこれで終わりだろう？
「いっ意地悪しないで
「玲ちゃんっ玲ちゃん玲ちゃん玲ちゃんッ！
「あっこら…主導権は…とりやっ！
「あう…っ
「入れるにしても…
「私がお前を犯すんじゃないとな…ッ」

「あああああ…っ
「うあ…ああ…す…凄いやっ姫子のちんぽ…ッ！
「裂けちゃいそう…っ」
「うあっ！玲ちゃんの膣内
あったかいっあったかいよっ

「お前のちんぽも熱くて…硬くて…ッ
「…あっあああん…っ」
「ふはあ…玲ちゃんのえっちな声…
色っほ…っ
「くあん…もっ…ばか…



「玲ちゃんのおっぱいはいい揺れてるよーっ」
「こっから余計なこと言うんじゃないよ……っ」
「だってこんな凄いの……ふあああー」
「くっそ姫子のくせに……ぶっくっんんっ」
「どおだ玲ちゃん奥突いちやうの
気持ちいいの力ナース？」

「だ……めっくそこのおバカ
ちゃんほじが取り柄ない癖に調子に乗るんじゃないよ……」
「ああっ」
「玲ちゃんもっつアタシを口汚なく罵って」
「このはかっちゃんほ……が……」
「ふあっあんっ、あんっ、あんっ」
「うあっ」
玲ちゃんの内凄く締まって……ふああああっ



「あうう~~~~~
し…締まる…っ♪
玲ちゃんもー私ダメだよ
射精しちゃうよおっッ!!!
「馬鹿姫子っつな…膣内でえっ
射精したら許さっつな…ああんっ♪
「無理だっつてえっ!
こんな気持ち良いのに膣内で
射精さないなんてありえないよっ!
「こらやめっやめろ
バカバカバカバカアアアッ!!!

「あっあっあっあっあっあっ♪
「玲ちゃんが感じてくれてる…っ
「か…感じてなん…ふはあんッ♪
「その声すっごいよお…
それ聞いているだけでもお私…ッ
「あんっあんっあんっあんっあんっあっ♪



「ふあっ！」

「で…射精るうううっ！」

「ひあ！あ！」

「あああああああああああああッッッ！！」

「あにや…にや…にやうう…」

「うああ…姫子の…姫子のザーメンがあああ…」

「玲ちゃん…玲ちゃん…玲ちゃん…っ！」

「うう…私…姫子の膣内射精で…」

「イっっちゃった…ああ…あうう…」

「な…膣内射精…きもちいいよお…」

「ん…子宮にびっちり亀頭くっ付けられて

直接ザーメン注ぎ込まれるの…凄いや…はう…」

「玲ちゃ…ん♪好き好き好き…」

「ふふ…ん♪次はベッキーも

巻き込んでシてみようか…？」

「べ…ベッキーまで…ッ！犯しちゃうの…っ？」

「ああ…あのちっちゃい体にお前のでかちんぼ

ねじ込んで犯すのも良さそうだろ…ッ！」

「はうくん…想像したら…」

「まだ大きくなったよ玲ちゃん…」

「…じゃ…取りあえずはも…発やっっちゃおかっ…」

「うんっ♪玲ちゃんすきーっ！」

「ドゥドゥおんもご。」





女の子にナニを生やしたり乳腺を活性化させたりして、
精液や母乳としてエネルギーを奪う妖魔…
そんなの破廉恥な相手に敗北したまこと。
普段の力を発揮できたならたやすくその怪力で
振り払えるような相手でも、
ワタナリにされ力を吸収された状態では抵抗しきれない。
その意思とは無関係に勃起するペニスに戸惑う隙に、
シオタードを破られその豊富な乳房を晒す。



か弱い少女同然となったまこちゃん、
腰を高く持ち上げた体軸に組み伏せられ、
ろくに濡れてもいない股に
野太い男根を突き入れられ
処女を散らしてしまう。
経験したことのない痛みの方で
激しく勃起する男根の
うずくような感触に混乱するまこと。





その雄乳を潰れる位の強さで揉まれ、
母乳を搾られてエネルギーを放出していく。
破瓜の痛みも同時に消えていき、
次第に快楽が増していく。
激しい突きこみを受けて絶頂に達し、
触れられてもないペニスから思いっきり射精。

妖魔の術に完全に吞まれた仲は、
その意思とは裏腹に快感を貪り続ける。
母乳をコリコリにしごらせた乳首から噴出する際、
膈内を妖魔のエウの粘った勃起で摩擦される際、
勃起したペニスから射精する際、
絶頂に達しつづける…。



犯され続けるうちにいつしか理性まで快楽に犯され、
 挿乳や射精で得る快感の真に...
 騎上位で腰を振りつつも後ろから母乳を搾られ、
 そして自らペニスをしごきあげてひたすらにイき続ける。





続いて挿入された亜典をそのペニスで犯すまこと、
初めて味わう体内に膣を震わせる。
その一方で亜典の初めてを覚えてしまった事に
かすかに残った良心が痛む程の、
正気を失った精神はその背徳感すらも
快楽のスパイスへと変えていく。



獣じみた格好で薔薇の体内に精液を注ぎ込むこと。
その熱いほびのちけと結合した部分からも
白濁液をたっぷりと吐き出してしまいう程。
体内射精の快感に胸の力も抜け、
薔薇の背中に柔らかな乳房を預け顔をかせる……

N.B.
Complex!

May:lish

#3



CAUTION! FOR ADULT ONLY!!

和解した夜一&碎蜂運ですが、
帰ってしまうという夜一さんに碎蜂半泣き。
せめて一晩だけでも昔の様に可愛がって欲しいとねだる碎蜂に
夜一さんもまんざらではない模様です。

「ほ…本当に区別なんたなりちゃんほじゃの…
百年で一番成長したのはこれなんじゃないか？」

「ひ…酷いです夜一様…」

「そんなことを言いつつ僕に慰められるの期待しておるんじゃないか？
ひくひくしているぞ…？」

「う…ううう…っ」



「そっ！そう言う夜一様は随分と無様に垂れてしまったのでありませんか？
寝えたのは速さだけではないようですね…」

「い…言うてはないか碎蜂…？
その垂れた乳を見てちんぽ
みっともなく勃起させておる癖に？

「…しかた…ありませんよ…
夜一様…夜一様の…こんな…
いやらしい姿…見せ付けられては…



熟れた夜一さんの爆乳に惹きこまれるように
手を伸ばす碎蜂。めろめろです。

「いやらしい夜一様の乳房が悪いのですっ
こんな…私を誘う様に…」

「揉むのも…上手くなっておるな…
どこで…ん…っ鍛錬したのやら…」

「ほら…指が抵抗も無く沈み込んで…
強く揉む腰肢体が震えておりますよっ
こんな無様に緩んだ…
昔よりもすっといやらしい肉塊をぶら下げて
恥かしくは無いのですか…っ?」



夜一さんも責められればなし
じゃありません。
練った気で程よい硬さにした髪留めで
碎蜂のふたなりちんぼの
尿道をくちゅくちゅ苛めます。

「おまこそ化け物じみたちんぼしおって
それこそ恥かしいわっ！」

「うあっ！によ…尿道は…っ！」

「ほれ…ほれほれ…っ！」

お主が大好きだった尿道責めも
ここまで巨大なちんぼだと
差込みが長い分酷く感じるのではないっか？

「や…っ！」

駄目…お止めください…っ！
よ…夜一…さまああああっ！



いい加減我慢も限界に達した二人。
騎上位で挿入体勢。

「ふ…ふふふ…」

分かるか碎蜂…♪

百年ふりにお主のを味わえると
僕のまんこが凝を垂らしておるのが…っ♪

「あ…熱い…っ」

よ…夜一様のおまんこ…

ハリ口が擦れてるだけでこんなにも…っ！

「どうじゃ…入りたいか碎蜂…？」

「よ…夜一様こそ唾え込みたくて仕方ない
有様ではありませんか…っ」

「まあ…否定はせんよ…
それではそろそろ…っ♪」



めちゅめちゅのおまんこをぎぢぎぢにさせて
碎蜂のちんぽをほうぼる夜一さん。
ゆっくりゆっくり大きな動きで膣を上下させて
凶悪なちんぽを堪能…

「お…おお…矢張り…漣い…のおお…」
まだ根元…が…余っておるのに…
子宮が潰…れる程突上げて…
おふ…ふううう…♪

「ああ…っ…こちらもっ…
夜一様の膣内が…熱くて…
絞る程締め付けて来て…
直ぐに…達してしまい…そうです…っ

「だ…だらしないの…っ
耐えろ…碎蜂♪
たっぷり楽しまなければ…
損じゃぞ…っ！」



結局あっけなく運してしまいそうになった碎蜂。
仕方なく夜一さん仰向けになって
碎蜂に思う存分膂を振らせてあげる事に。
勢いさえつけばありえないサイズのちんぼで
夜一さんまであっけなく絶頂を迎えそうになって…

「あーっ！
んあっあんっんっんっ♪
んおおおおおおおおおおおおおおおおおおっ♪

「よ…夜一様…っ

夜一…さまっ

夜一さまっ夜一さまっ

夜一…さまあああああああっ♪


「ひ…っお…おおおお…っ♪

ひお…っお…おおおお…っ
な…膂内で…精液が…あああ…っ♡

「夜一…さまあ…♡

…そんなこんなで、
結局纏るまでずっと
お互いの体に耽溺し続ける
二人なのであります…





その でっかい○○を...

For Adult Only.

…前略 だっ
大コースです…っ

あう…っ

て…
てっかい衝撃です…っ

藍華ちゃん
流石にシヨック
みたい

なにしろ藍華ちゃんの
憧れの先輩と
本物のお姉さんみたいな
二人がこんな…

アハハハ
アハハハハ
アハハハハハ

あう…

こんなあああつ！

やっ止めろアリスア
そろそろお尻つちが
痺ってきちゃう……っ

あらあら……そんな「ヤ
言っちゃっても……」

うん

んんん……
じじいお母さん……っ

やあ……やあんね
んんんんんん……っ

んんん



ほり…
兜ちゃん乳首も…
…ね？

あ…あ…あ…う

あ…あ…あ…う



ん…ん…ん…
は…は…は…
ん…ん…ん…

う…う…う…
自分で必死に舐めて…
いやらしくて
素敵よ兜ちゃん



ぼり馬鹿
そんなこと言っ
禁止…きんしいっ！

乳首舐める度
おちんぼびくびくさせながら
言っても説得力無いわよ…？

あ…あ…あ…う

もう透明な
お汁でおちんぼ
ぬるぬる...

んんんんん
んんんんん...

乳首だ〜いすぎなのね
異ちゃん♪

やつぎが...
こんな...
こんなの駄目えっ!



U...U

U...U

U...U

U...U

U...U









あんな…いやだ…
 つかつかつかつか…

お前が…
 あんなに
 殺しからだのじり

あらあら…
 イったばかりなのに
 もうこんなに元気なんて…
 えっちな異ちゃん

ごめんなさいね異ちゃん…
 でもあんなにたっぶり
 美味しそう
 おちゃんぽ汁出されたら…ねっ

う…う…う…

あ…
 あ…あ…あ…
 あ…あ…あ…

ん…ん…
 そろそろ挿れたらね…

あ…あ…あ…

あ…あ…

あ…あ…

はひ…っ兎さんの…
あ、あんな大きなのが
アリシアさんの膣内に
入っていいのですね…っ…

あ…ふふ…っ
おちんぼのさきっぽお…っ
くちゅくちゅって
熱いわ兎ちゃん…っ

じ…焦らすなあ
アリシア…っ
焦らすの…禁上…っ

うっふふ…
かわい…っ

馬鹿…っ
お…っ

じゅわん…っ
…っ

うっ
うっ

うっ
うっ

うっ
うっ

うっ
うっ

うっ
うっ



ん…
入って…

熱くて…
大きくて…
硬あい…っ

ん…
入って…



ん…
入って…

異ちゃんの…びんびんのおちんぽっ
中…エグってるのっ♪
き…きもちっ♪
いいわ…異ちゃん…っ♪

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…

ん…
入って…



ふっふっふっ...かかし

H...R...コ...R...G
脱走...
せうじ...

そんな... さあ... さあ...
思われてる... さあ...
H...R...コ...R...G...

あん... あっ... あらあら... 異ちゃん...
ん... あ...っ... 日えん坊ね...っ

ん... な... 女... だ... 私...っ
さ... と... ば... の... の...
さ... と... ば... の... の...

ハァッハァッ

ハァッハァッ

ハァッハァッ

ハァッハァッ



おん...おん...
おん...おん...

おん...おん...おん...おん...

おん...おん...おん...おん...

おちゃん...ツイッチャウの？
おちゃんぼイッチャウのねっ？

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...



おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...





んー

んー

んー

んー...んー...
胸が熱いよ...
あーんー

んー...んー

んー

んー...んー...
あーんー...
んー

んー

んー

あんな見えた...
初めて見ました...

んー

んー...んー...
んー

んー



そろそろ晃ちゃん 限界かしら...?



ういせふなてユリノコ... ないみだいらあ.....

あ...あ...

灯籠のメールは
くちからかじゅうと
満面笑顔で...
アキちゃんに
こんなメール送るのは
てっかいダメでしようからー

N.B.
Complex!